

既刊「電中研レビュー」ご案内

- NO. 32 「人間と技術の調和に向けて ヒューマンファクター研究 」1995. 3
NO. 33 「放射線ホルミシス 研究の意義と取り組み 」1996. 3
NO. 34 「ガスタービン研究 高効率発電の主角を担う 」1997. 1
NO. 35 「地下の探査・可視化技術」1997. 5
NO. 36 「送電線コンパクト化技術の開発 高分子材料の適用 」1998. 3
NO. 37 「乾式リサイクル技術・金属燃料FBRの実現に向けて」2000. 1
NO. 38 「大気拡散予測手法」2000. 3
NO. 39 「新時代に向けた電力システム技術」2000. 6
NO. 40 「原子燃料サイクルバックエンドの確立に向けて」2000. 11
NO. 41 「需要家と電気事業のエネルギーをトータルで考える
需要家の特性解明と省エネ技術 」2000. 11
NO. 42 「原子力発電所の人工島式海上立地」2001. 1
NO. 43 「酸性雨の総合評価」2001. 2
NO. 44 「石炭ガス化複合発電の実現に向けて
実証機開発の支援と将来への研究展開 」2001. 10
NO. 45 「地球温暖化の解明と抑制」2001. 11
NO. 46 「微粉炭火力発電技術の高度化
環境性の向上と発電コストの低減 」2002. 11

編集後記

電磁界と健康影響の問題は、古くより科学的に議論されてきたが、社会の関心が電界から磁界に移行した1990年代以降、当所では商用周波数を中心とした極低周波磁界の健康影響に重点をおき、工学的・生物学的・社会科学研究を総合的に推進してきた。

従来、本問題については系統的な研究が少なく断片的な結果が報告されていたが、当所では学問分野横断的に取り組み、環境磁界の定量的計測・評価技術、生物学的研究における作業仮説のもとでの細胞・小動物による電磁曝露実験、国内外での研究動向調査など研究推進体制一本化のもとで鋭意研究を進めてきた。その結果、約10年間にわたる当所の研究成果、ならびに内外の研究成果

の客観的な分析結果をもとに、「少なくとも現在の生活および職場環境における極低周波電磁界が、われわれの健康に悪影響を与えるという科学的な根拠はない。」との認識に達した。

現在、さらにWHOなど国際機関での電磁界の健康影響問題に関する調査活動が進められているが、この電中研レビューが本問題の現状をご理解頂く上で幾分なりともお役に立てば幸いである。

今後とも国内外の情報については、科学的・客観的な分析・評価をもとにした情報発信を継続して実施する所存である。ここに関係各位のますますのご指導とご鞭撻をお願いする次第である。



電中研レビュー NO.47

平成14年11月14日

編集兼発行・財団法人 電力中央研究所 広報部
100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1 [大手町ビル7階]
(03) 3201-6601 (代表)
E-mail : www.pc-ml@criepi.denken.or.jp
<http://criepi.denken.or.jp/>
印刷・株式会社 電友社

| | | | | | | | |
|--|----------|-----------------|----------------|----------|----------|------------------|----------------|
| 本部 / 経済社会研究所 | 100-8126 | 東京都千代田区大手町1-6-1 | (03) 3201-6601 | 我孫子研究所 | 270-1194 | 千葉県我孫子市我孫子1646 | (04) 7182-1181 |
| 狛江研究所 / 情報研究所 / 原子力情報センター | | | | 横須賀研究所 | 240-0196 | 神奈川県横須賀市長坂2-6-1 | (0468) 56-2121 |
| ヒューマンファクター研究センター / 低線量放射線研究センター / 事務センター | | | | 赤城試験センター | 371-0241 | 群馬県勢多郡宮城村苗ヶ島2567 | (027) 283-2721 |
| | 201-8511 | 東京都狛江市岩戸北2-11-1 | (03) 3480-2111 | 塩原実験場 | 329-2801 | 栃木県那須郡塩原町関谷1033 | (0287) 35-2048 |
